

## 2019年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	eALPS を活用した数学基礎力養成プログラム	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	全学教育機構	
※連携する他学部・機関がある場合は記入	理学部 数学科	
実施責任者(所属)	片長 敦子 ( 全学教育機構 )	
取組の目標	授業外学修支援活動「数学アルプス」の eALPS 版の充実	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	<p>1. 演習・質問コーナーの設置 全25回, 授業外において活動した結果, 詳しい学生の理解状況が把握でき, どのような ICT 教材が必要なのかが明らかになった.</p> <p>2. TA 前期開講の微分積分学 I (演習)の3クラスにおいて, 学生スタッフが教員の指導補助を行うことで, 学修のポイントを周知させることが出来た.</p> <p>3. 数学質問箱(eALPS) 上記1. 2. をもとに教員と学生スタッフが間違いやすい点, わかりにくい概念・計算について丁寧な解説・演習問題を作成した. また非常勤の先生からの提供もあり, 今回の取り組みにより「全132セット」の ICT 教材を作成することが出来た: 微分積分学 I (53セット), 微分積分学 II (35セット), 線形代数学 I (24セット), 線形代数学 II (16セット), その他(4セット)</p>	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望  (達成の度合いを選び, そう評価する理由と今後の展望を記述)	a. 達成できた	<p>(評価理由)ICT 教材が7セットから132セットになりかなり充実できた. また, 学生のアクセス数が約30,000以上という数が出ており, ICT 教材で学修する学生のニーズに対応できたことが明らかになった.</p> <p>(今後の展望)折しも2020年3月, 新型コロナウイルス感染症への対応から, 教育機関における ICT 教材の重要性が高まった. 今回の取り組みにより基礎数学の土台が出来た. 展望としては, 学生の自己採点には甘さがあるため, ICT 教材で学修後, 対面で行う演習・質問コーナーでの確認・指導も積極的に受けるように促す取り組みの開発が必要である.</p>